

# マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

特研究生のつばやきということで、拙い文章で恐縮ですが、研修の所感を述べたいと思います。

『3か月間にわたり同じ屋根の下で暮らすという経験は、別れ際に熱い感情をこみ上げさせるには十分であった。新型コロナウイルス感染症がいかに、研修生の中にソーシャルディスタンスを保たせることがあったとしても、濃密な絆を妨げるものではなかった。

ハードな研修生活が終わり、1か月を過ぎた頃、研修生同士LINEで連絡を取り合った。コロナや鳥インフルの対策部署に異動になり、北から南まで地方自治の最前線で仕事に邁進する研修生の活躍ぶりを聞き、全国に同志ができたことについて改めて自治大学校での経験の貴重さを実感した。

研修は確かにハードであった。自主討議室などの学習施設が遅くまで利用できるのも、とことん他の研修生と演習の課題について話し合った。それだけではなく、夜には談話室(注：手洗い、手指消毒、咳エチケット、利用歴の管理、三密の回避を徹底して利用)に毎日のように集まり、地方自治(それだけではないが笑)について激しく語り合った。談話室は、研修生の人となり(皆、個性は強いが本当にいい人だった。)を知る最高の場所であった。多少のアルコールは胸襟を開くのに抜群だった。さらには、体育館やジム、テニスコート、グラウンドなどの運動施設も上記のように感染防止対策を徹底した上で利用することができ、良い気分転換も出来た(テニスコートで聴いた校歌は格別だったな。)

校歌といえば、最終日に自室で聴いた校歌は胸に来るものがあった。しかし、校歌の3番の歌詞が寂しさを和らげてくれた。♪学びや後に 西 東♪郷土の栄え めざしつつ♪栄えあるわれら♪…ありがとう自治大学校！そして、全国のみんな！また会う日まで！』

貴重な経験をさせていただいたことについて、自治大学校の皆さま、派遣元や家族に感謝しています。これから教務部で担当する第2部課程では恩返しするつもりで頑張りたいと思います。(S.I)



(研修後の談話室、新たな研修生を迎えるために整頓されている)